

## 薬物乱用防止について

国立病院機構肥前精神医療センター 依存症治療センター長 武藤 岳夫 先生



1

### はじめに…

薬物乱用は、「ダメ。ゼッタイ。」これは誰もが知っています。乱用される薬物の多くは法律で厳しく規制されています。そのため、わが国では基本的にこの問題は司法的対処(犯罪、取り締まり)が中心でした。一方で、ほとんどの乱用薬物には依存性があり、「わかっちゃいるけどやめられない」状態になる人がいて、それが病気であることは正しく理解されていないように思います。さらに最近では、病院で処方される薬、市販薬など、必ずしも規制の対象とはならない薬物の乱用も増えてきています。私は、薬物乱用防止のためには、「取り締まり」と「治療・支援」の両面が必要だと考えています。ぜひ以下の内容をご一読いただき、知識と理解を深めていただきたいと思います。



## 乱用薬物の種類と 主な薬物の影響

一口に「薬物」といっても、その種類も作用も様々です。主な乱用薬物の種類には、**図1**のようなものがありますが、薬物の作用は主に脳(中枢神経)を興奮させるもの、抑制するものに分けられ、そのうちの一部に幻覚作用を持っているものがあります。

それぞれの薬物の影響の詳細については、「ダメゼッタイ」ホームページなどをご覧ください。ただし、ここでは、わが国で現在特に大きな問題となっている薬物の影響と現状についてご紹介します。

### ①覚醒剤

覚醒剤は、長年わが国の乱用薬物の代表格といえる存在です。脳内の報酬系と呼ばれる部分にドーパミンという物質を大量に放出させ、強い快感、爽快感がもたらされるため、その分依存性も極めて強い薬物です。その結果、繰り返し使用したいという欲求が生じ、何とかして手に入れようと犯罪に手を染めたり、一度逮捕されてもまたすぐに使ってしまったりする危険性が高い薬物です。実際に警察庁の発表によると、昨年の覚醒剤取締法違反での検挙者のうち、再犯者の割合は69.4%と非常に高率で、しかもこの割合は年々増加しています。

一方、覚醒剤は、過剰なドーパミンの放出により、

幻覚や妄想をもたらしやすい薬物でもあります。習慣的な使用を続けていると、使っている時だけでなく、使用をやめた後にも後遺症として幻覚、妄想が残ってしまうことが多く、その後の生活の質を大きく落としてしまいます。

### ②大麻

大麻は、世界中で圧倒的に乱用人口の多い薬物です。昨年の大麻取締法での検挙者数は過去最高の5034名を記録し、日本においても、確実に乱用者は増えていると思われまます。特に、10代〜20代の検挙者は約7割を占め、若年者層に大麻の乱用が広がっていることがうかがえます。

大麻は、「依存性が低い」「医療でも使われている」など、使用を正当化する情報がインターネット上にはあふれています。これらのすべてが誤っているわけではありませんが、少なくとも大麻は医学的に決して安全な薬物とは言えません。**図2、3**に示す通り、大麻の主成分であるテトラヒドロカンナビノールの作用により、主な作用だけでもこれだけ多くの影響を及ぼします。何より問題なのは、わが国では大麻の所持、譲渡、売買等については完全に違法であり、「違法薬物を手に入れる(使う)」という大きな心理的ハードルを越えてしまうことです。確かに、一部の国や地域では、嗜好品として大麻使用を合法化する動きがありますが、これらの国々は複雑な理由が絡んでやむを得ず認めているのであり、決して大麻が安全であるとは認めていない、ということを知っておく必要があります。

図1

### 乱用薬物の種類と作用



図2

### 大麻の身体作用

**用**  
増加、起立時の血圧低下、  
の充血、食欲の増進、  
の障害、悪心、嘔吐

**用**  
の障害(肺癌、慢性気管支炎、嗄声)  
子数の減少、性ホルモンの分泌低下  
免疫力の低下





### ③ 向精神薬、市販薬

医師が処方する薬の中にも依存性が強いものがあり、漫然と飲み続けていると、同じ量では効かなくなったり、やめるときに不安が生じたりすることがあります。また、現在の睡眠薬や抗不安薬は、用法・用量を守っていれば安全なお薬が増えましたが、眠れないからと何錠もまとめて飲んだり、イライラするたびに飲んだり、といった飲み方は「薬物乱用」にあたり、もちろん依存症の危険も高まりますので、注意が必要です。

また、一部の風邪薬や咳止めなど、薬局やドラッグストアなどで簡単に購入できるお薬の一部には、中枢神経興奮薬と抑制薬の両方の成分が含まれ、多量に服用することで「やる気が出る」「多幸感が得られる」などの情報がインターネットなどで共有されており、注意が必要です。当然、これらも「薬物乱用」にあたります。



### 3 薬物依存症について

薬物乱用の本当の恐ろしさは、前述のような影響もそうですが、いざやめたいと思った時にやめられないという状態になり、それが周りも自分でも気づかないまま進行してしまうところにあります。これが薬物依存症です。図4はWHO（世界保健機関）が示す薬物依存症の診断基準ですが、基準があるということは、国際的に認められた、れっきとした病気であるという証拠です。これらの症状は、薬物の影響による脳内の変化により生じるものであり、その人本来の意思や性格、攻撃性などとは関係がありません。ところが、薬物依存症（老）は「意志が弱い」「嘘つき、わがまま」といった誤ったレッテルが貼られ、結果としてそうした偏見（ステイグマ）が早期の相談や介入を遠ざけ、社会の中で生きづらさを感じ、また薬物乱用に陥ってしまうケースが非常に多い、という悪循環が生じています。薬物依存症に対する正しい知識を多くの方に持っていただくことは、薬物乱用防止対策をより進めることに必ずつながってきます。薬物も含めた、依存症についてもっと知りたいという方は、「依存症対策全国センター」のホームページをぜひご覧ください。



#### 薬物依存症の診断基準(WHO)

- ◎薬物を使いたいという強い欲望、強迫感。
- ◎薬物使用（開始、終了、使用量）の制御が困難。
- ◎離脱症状（やめたり減らしたりすると不快な身体・精神症状が出る、その症状を軽減するためにまた薬物を使う）。
- ◎耐性（使用量を増やさないと効果が得られない）。
- ◎薬物中心の生活（他の楽しみ、興味が減少し、摂取時間、影響からの回復時間が延長する）。
- ◎心身あるいは社会生活・家庭生活などに明らかな問題が生じているのに薬物使用を続ける。

過去1年間に、  
3つ以上が同時に  
存在したときに  
依存症と診断する。



#### 大麻の精神作用

- ◎気分・情動の変化  
陶酔感、多幸感、ユーモアのある高揚感  
good trip | 色彩や音の感覚の変容、気分高揚、多幸感  
bad trip | 不安や恐怖、猜疑心、抑うつ感
- ◎視覚・知覚の変化  
聴覚の鋭敏化、時間認識の変化
- ◎思考・精神の変化  
統合失調症的思考障害、無動機症候群
- ◎認知機能の変化  
注意・判断力低下、知的機能の低下





## 薬物乱用防止に向けて

わが国の違法薬物の生涯経験率（一生に一度でも薬物を使ったことのある人の割合）は1.4%と言われています。この数字は一見非常に低いように見えますが、言い方を変えればおよそ70人に1人です。これらの人には、「ダメ。ゼッタイ。」のメッセージが届かない可能性があります。

最初にも書きましたが、私は薬物乱用防止のためには、「取り締まり」と「治療・支援」の両面が必要だと考えています。薬物経験者のすべてが依存症になるわけではありませんが、その70人のうちの1人が、回復したいと思った時に声をあげられ、支援につながれる体制が必要です。仮にご本人が希望しなくても、問題に悩むご家族等が気軽に相談できる場所が必要です。当然、違法行為を犯したことの罪はきちんと償うべきであると思いますが、罪を償った後にまで、その人の社会復帰を妨げたり、社会的制裁を加える権利は誰にもありません。

今年開催された東京オリンピック・パラリンピックでは、「多様性と調和」が非常に強調されていたことが印象的でした。さまざまな背景を持つ人誰もが、生きづらさを感じることなく生活できる社会を目指す必要があります。薬物乱用防止に向けて、「ダメ。ゼッタイ。」はもちろん大事ですが、少数の薬物乱用者にも手の届く、その先の対策も同時に行っていくことが、真の薬物乱用防止であると考えています。



いずれも平日9:00~17:00、ご家族のみの相談も可。  
秘密は必ず守られます。

### 県内の相談窓口、治療機関などの連絡先

佐賀県依存症相談拠点機関 | 佐賀県精神保健福祉センター ..... TEL0952-73-5060  
 佐賀県依存症治療拠点機関 | 肥前精神医療センター ..... TEL0952-52-3231  
 薬物相談窓口(佐賀県薬務課より委託) | NPO法人佐賀DARC ..... TEL0952-28-0121

### さらに薬物乱用問題について知りたい方へ

▶「ダメ。ゼッタイ。」ホームページ (公益財団法人麻薬・覚醒剤乱用防止センター)

↳ <https://www.dapc.or.jp/index.html>

▶依存症対策全国センターホームページ

↳ <https://www.ncasa-japan.jp/>

▶ご家族の薬物問題でお困りの方へ (厚生労働省)

↳ [https://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/dl/yakubutu\\_kazoku.pdf](https://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/dl/yakubutu_kazoku.pdf)

